



活動の終了をきっかけに

寿サロン飯倉は登録して12年が経過しました。活動の原点は、社協の有償在宅福祉サービス「おむすびサービス」の会員コーディネーターを中心に、地域の利用会員を集めて行っていた「おむすびひろば」です。協力会員が利用会員とともに集まる活動を終了することになって、当時の会員コーディネーターだった地域の方がサロン活動として引き継ぎました。



協力できる仲間がいるからこそ、活動は長く続きます



専門機関とも連携して…
消防署の人にきてもらい「火災予防」の話をしてもらいました

仲間をつないでいく「縁」

参加者同士で仲間を広げてくれることもありました。「うちの近所にひとり暮らしの人がいるから誘っていいかしら？」と運営の中心になっている人へ相談が入ることも。

『気軽に話ができる。カレーを食べながら集まれる場所…』活動がはじまった時からの、変わらぬ想いを大切に…。これからもここで出会った「縁」が続いていくよう、それぞれできる範囲で協力しあい、息の長い活動として、変わることなく続いていって欲しいと思いました。

カレーを中心に役割分担

「高齢者同士が地域の中で気軽に話ができ、かつ、高齢者が家では作らないカレーを食べながら集まれる場をつくろう」と続いてきたサロン。今も大切にしていることは「できることは1つでも担当してもらおう」ということ。

料理は女性が中心になりがち、ならば男性には出欠確認や集金を担当してもらおう。みんなが運営に参加して、協力できるよう工夫しています。

月に1回の活動を参加者はとても楽しみにしていて「仲間と会ってカレーを食べるのが楽しみ」、「ここでおしゃべりするのが楽しい」と話してくれました。



民生委員の方の見学もありました